

SFC 初学者を対象とした、インタラクティブ作品の企画・制作・展示を行う短期集中型ワークショップ— A&T—(アート&テクノロジー東北 2012 に向けて)

環境情報学部 3 年 三谷真梨奈

1. はじめに

近年、ものづくり工房や FabLab の設置などものづくりを支援する動きが SFC 内で非常に活発になってきている。一方で、新入生にとって入学当初は希望する授業や研究会の履修が困難である。本活動はものづくりに高い関心も持った新入生を対象に、インタラクティブ作品の企画、制作、展示を行う短期集中型のワークショップを提供する。SFC におけるものづくりの活性化を促すと共に、未来の優秀なクリエイターを生むことを目的とする。

2. 企画および制作

まず、3 月ごろから入学を決めた新入生に対してのインターネット上での広報を行った。その結果、ワークショップの説明会や直接会って説明を行い、最終的に 12 名の新入生が参加した。参加者は技術力や興味が偏らないように 3 つのチームに分け、4 月中旬から企画に取り組んでもらった。

本年度は、本活動を継続していく試みの一環として、各チームの活動記録のために参加者のみの共同ブログを開設した。以前はメールが主体だったが、ブログにも掲載することで、ログの閲覧が容易になった。また、上級生からのフィードバックも、ブログのコメント機能を利用した。結果、例年と比較するとチーム内でのブレインストーミングの際に、行き詰ったアイデアを一旦寝かす、という姿が多く見受けられた。また、一部の新入生は他のチームに対してもコメントをしており、チーム間のコミュニケーションも生まれた。

どのチームも 7 月の初めには作品のアイデアと大まかな設計まで考えた上で、7 月の上旬には機構を模したプロトタイプを何回かにわたり作成した。作品に応じて、Arduino や Processing の使い方をレクチャーしたうえで、実際の製作の中で分からないことがあれば上級生が適宜サポートしていく形をとった。

3. 2012 年度出展作品

・Time Turner

時を制御する、ということコンセプトに、砂時計を用いて動画の再生・逆再生を行う作品。砂時計をひっくり返すと動画は再生し、砂時計を逆にひっくり返すと動画は一瞬停止したのちに逆再生を始める。

・IROCHI

世界から色が抜け落ちることを表現するインタラクティブアート。ディスプレイを対象物に向けて、息を吹きかけると、ディスプレイに写った対象物の色が泡と共に消えていく。その後、対象物は徐々に色を取り戻す。

・しゃぼ音玉

しゃぼん玉を割る行為を拡張するインタラクティブ作品。棒状のデバイスを振ってシャボン玉を割ると、音と振動を感じる。テンポ良く割っていくと音楽を奏することもできる。

4. 展示

上記の3つの作品を、アート&テクノロジー東北 2012(7月28日、岩手大学)において展示した。今年度は、例年よりも完成時期を早めに設定したため、各チーム大きな問題は無く展示を行うことができた。来場者の各作品に対する評価も高く、結果として3チームすべてが優秀賞授賞と、A&Tとして過去最高の結果を残した。



展示の様子

5. 今後の課題と展望

2009年度から始まった本活動は、今年度で四度目の実施となるが、少しずつ参加者や出展数を増やす、といった形で活動の規模を拡大してきた。今後はワークショップを体験した新入生が次年度以降は上級生としてサイクルを形成するにより、活動の継続性と質の向上を行っていききたい。また、他の展示会やコンペにも応募する機会を設けることで、より長期的にもものづくりを実践し続けられる場にしていききたいと思う。

謝辞

今回の活動は2012年湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」の支援により行なわれた。